

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校 全日制)

目指す学校像	校訓「質実剛健」、教育方針「文武両道」を実践し、広く社会で活躍できるリーダーを育てる進学校
--------	---

重点目標	<p>1 学力向上—勉学と特別活動を両立させる生徒を育成する。</p> <p>2 使命感—使命感を育む教育活動を推進し、自己実現を果たす力を身に付けさせる。</p> <p>3 情報発信—本校の魅力を積極的に発信し、より一層開かれた学校づくりを推進する。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月8日 現在)				
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
実施日平成30年2月17日								
学校関係者からの意見・要望・評価等								
1	<p>「学力向上」</p> <p>○生徒は、難関国立大学を目標に最後まで取り組み実績を残した。また、勉学と学校行事・部活動等の特別活動と両立させている生徒も多いが、センター試験で、総合得点分布で下位の生徒もいる。</p>	○第一志望を最後まで貫き、難関大学の合格状況を向上させると共に、主体的に学習する生徒を育成する。	<p>①実力試験等の結果を活用し、生徒の学力到達状況を把握し、模試分析会議を通して学年と進路指導部との連携を強化する。</p> <p>②生徒ひとり一人に対して効果的な面談を実施する。</p> <p>③春高生帳を活用させ、スケジュール管理を徹底させる。特に1年生に対して活用指導を徹底させる。</p> <p>④教職員の指導方法や授業改善に向け、相互の授業観察を行う。また、各種授業研究セミナーに参加する。</p>	<p>①センター試験で700点以上取れた生徒が20%以上。</p> <p>②各学期1回以上の面談が実施できたか。</p> <p>③生徒アンケートの結果、「自己管理できている」と答えた割合が50%以上。</p> <p>④各種授業研究セミナー参加回数延べ70回以上及び生徒アンケートの授業充実度が80%以上。</p>	<p>定期的な面談を通して、高い目標を持たせた。進路実現に向けて年間進路プログラムにそった指導ができた。</p> <p>①センター試験を全員が受験した。総合型で(国公立型受検者900点換算)700点以上取れた生徒は23.4%であった。</p> <p>②6月、9月、1月(3学年は11月)に面談週間を設定し、組織的に取り組んだ。これ以外にも、随時面談を実施し生徒一人一人の実情を把握し、個々に応じた助言を与えた。</p> <p>③生徒アンケートの結果は1年27.2%、2年17%であった。(昨年度1年生18.1%)</p> <p>④各種授業研究セミナー・入試研究会に延べ97回参加。(12月末まで)生徒授業充実度80.7%。(昨年78%)</p>	B	<p>・生徒アンケートの結果、「自己管理ができている」と答えた割合が目標を下回った。しかし、昨年度の反省を活かし、1学年は、年度当初から、春高生帳の活用について指導を行った。その結果昨年度より約10%上昇したが、目標値までは達しなかった。</p> <p>次年度は、学期始めや考査前後を1つの区切りとして、担任からの指導を強化していく。</p>	<p>進学指導が、国立大学に偏っているという保護者からのアンケートがあるが、全人格教育(全科目教育)というスローガンを前面に出せば理解されるはずである。学習する時期にしっかり学習させて欲しい。大学入学後も必ず必要になる。また、最後まで粘り強く妥協せず受験する生徒を育てて欲しい。</p> <p>引き続き「自己管理ができる」生徒の育成に向け指導をお願いしたい。春高生帳で学習プランを立てる生徒も多く、将来必要な力が身につく。活用しやすくするため、手帳サイズなどの検討も必要ではないか。</p>
2	<p>「使命感」</p> <p>○生徒は、「質実剛健」「文武両道」の校訓と教育方針のもと、充実した学校生活を送っているが、チャレンジ精神に欠ける者もいる。</p>	○各種進路行事を継続実施し、生徒に高い志を育ませ、国際社会の中枢を担う良識あふれるリーダーを育成する。	<p>①各種学校行事を生徒が主体的に運営する。</p> <p>②骨太リーダー育成リベラルアーツ事業をとおして、生徒の意欲を高める活動を実施する。</p> <p>③SSH事業を活用して、生徒の能力を引き出す。</p> <p>④国際交流事業(グローバルリーダー育成塾)に、多くの生徒を積極的に参加させる。</p>	<p>①生徒アンケートの結果で、リーダーとしての意識が向上した割合80%以上。</p> <p>②骨太事業に積極的に応募した生徒数。</p> <p>③運営指導委員会の意見や生徒アンケート「課題発見能力の向上」が65%以上。</p> <p>④メルボルン高校との交流事業とハーバード事業への派遣の成果。</p>	<p>生徒は、各種行事や各事業を通して逞しく成長している。また、SSH事業や骨太事業にも積極的に参加し成果をあげた。</p> <p>①生徒アンケート結果は、1年生91.5%、2年生80.2%の生徒が意識の向上を感じている。</p> <p>②9つの骨太事業に対して延べ189名の生徒が参加した。</p> <p>③2月の研究発表会では、運営指導委員から、年々取り組む姿勢や内容が向上していると評価を頂いた。また、生徒アンケートより「課題発見能力の向上」が94%であった。(昨年度63.2%)</p> <p>④メルボルン高校へ21名の生徒を派遣した。また、グローバルリーダー育成塾へ3年生1名が選考され派遣された。</p>	A	<p>・何事にも積極的にチャレンジする生徒が増えてきている。一方で、まだまだ一步を踏み出せない生徒も少なくない。</p> <p>次年度も、今年度同様に骨太事業を始めとして、リーダーとしての自覚を持たせチャレンジする機会を提供していく。</p>	<p>行事をとおして、リーダーシップを養う春高教育で、主体的に活動する生徒を育てて欲しい。</p> <p>骨太事業やSSH事業は、他校との交流があり、お互い生徒同士刺激されリーダー育成に良い事業である。今後も積極的な取り組みを望む。</p> <p>高校生になって、海外に目を向け挑戦する「たくましさ」がこれからは必要である。国際交流事業を今後も充実させて欲しい。</p>
3	<p>「情報発信」</p> <p>○学校説明会・土曜公開授業・ホームページ(HP)等を利用して、本校の魅力を発信しているが、まだまだ正確な情報発信ができていない。</p>	○積極的に、県民や中学生等に本校の魅力や教育活動を発信する。	<p>①PTA理事会等で、メールシステムを活用する。</p> <p>②HPのリアルタイムな情報(学校行事や部活動等)の発信と更新を行う。</p> <p>③中学校訪問や学校説明会等を工夫し充実させる。特に、加須、古河、野田・流山・柏地域を重点地域とする。</p>	<p>①保護者メール配信システム登録件数が昨年より増加したか。</p> <p>②12月末までに更新回数が200回以上。</p> <p>③PTAと協力し学校説明会を充実させると共に、説明会の会場を新たに開拓し実施する。</p>	<p>メール配信システムを導入して2年目。各分掌・学年・クラス担任から登録者に適切な情報を発信することができた。</p> <p>①メール一斉送受信システム登録者1245名(両親での登録あり)登録。</p> <p>②ホームページ学校トピックスを、リアルタイムに212回更新。(12月末現在)</p> <p>③秋季学校説明会3回、冬季学校説明会1回各回平均6人のPTA役員が協力した。説明会参加者のアンケート結果では、大多数が好印象であった。</p>	A	<p>重点地域での学校説明会を実施したが、参加者数が少なかった。</p> <p>次年度は、開催時期や実施場所の再検討をしている。</p>	<p>メール配信の情報は、適度な発信でよい。要望を聞き過ぎて、過度の発信は良くない。</p> <p>HPのトップ記事は、充実している。しかし、部活動の情報で最新でないものが多々ある。また、部活動の一覧がわかるようなページがあると良い。</p> <p>今後は、携帯用のサイトも考えてみてはどうか。</p> <p>学校説明会で、PTAから保護者目線での説明など検討してみてもどうか。</p>